



令和7年度 学校経営シラバス

北海道札幌手稲高等学校

【校訓】

「継続は力なり」

【学校教育目標】

「愛と力と夢よあふれよ」

【スクールミッション】

- 生徒の興味・関心、進路実現等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
- 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成

【キャッチフレーズ】 Teine Pride ～一人一人が手稲高校～

目指す学校像	目指す生徒像
「北海道で一番生徒が伸びる学校」 ・自ら学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む学校 ・豊かな心と健康な体を持つ生徒を育む学校 ・グローバル社会におけるリーダーを育む学校	・「自ら学ぶ力」を持ち、高い志の実現に向けて自分の考えと他の意見とを総合し、ともに学び合える生徒 ・「夢を描く力」を持ち、意欲的に課題に取り組み主体的に活動できる生徒 ・「ともに生き抜く力」を持ち、広く社会に貢献できる生徒

領域	対象	中期目標	今年度の目標	取組の具体
教育活動	学習指導	○生徒の可能性を高め、育てる、よりよい学習指導の実践 ○思考力・判断力・表現力を育成する主体的な学びの推進	(1) 各年次の生徒に即した指導方法と評価方法について研究する。 (2) 新学習指導要領、高大接続改革を見通して教育課程を編成する。	・授業評価を年2回、教科別研修会を年2回以上（指導方法と評価方法について）実施する。 ・最新の情報を元に教育課程委員会で検討を行い、その進捗状況を学校全体に発信して共通理解を得る。
	進路指導	○地域や保護者の期待に応える進路指導 ○本校の進路指導における統一性の確立	(1) 講演会などの情報提供を適切に行う。 (2) 講習体制について検証を実施し、今後の検討課題とする。	・生徒の進路希望を達成する。 ・進路目標達成のために、講習計画や講演会・情報提供等を適切に実施する。 ・他の分掌とも協力し「進路シラバス」について研究する。
	キャリアガイダンス	○生徒の主体的な進路選択・科目選択に結びつける支援の実施 ○3年間を通じて基礎的・汎用的能力を育むキャリア教育の設計	(1) 生徒の興味関心や適性を踏まえた科目選択を指導する。 (2) 課題解決学習を通じて、生徒に必要な様々な能力を育成する。	・生徒や保護者へ十分な説明を行い、適切な科目選択指導を実施する。 ・生徒の進路意識および学習意欲の向上を図る。 ・分掌・年次・教科間および外部関係機関との緊密な連携を図る。
	生徒指導	○挨拶や時間を守るなどの大切さやモラル意識の高揚 ○集団生活における協調性や主体的な自己の役割についての理解促進	(1) 社会生活における規範意識を高揚させ、主体的行動と態度を育成する。 (2) 学校生活における自分の立場を理解させ、他との協調性を養う。	・規範意識啓発のため通信等を発行し、社会生活や集団生活でのマナーや情報モラルの向上を図る。 ・生徒が自己と他者を尊重する心を育むとともに、「いじめ見逃しゼロ」を目指す。
	特別活動	○生徒会・HR活動、学校行事、部・局・同好会活動の自主的かつ活発な運営 ○生徒の人間成長のための教職員間連携	(1) 生徒の自主性を尊重し、活発な活動となるよう支援する。 (2) 各年次・各分掌との連携により、生徒の人間成長に寄与する。	・特別活動を通じ、生徒の意識や意欲を高め、人間的成長を促進できる充実した活動となるよう支援する。 ・各年次や各分掌と連携し、各年次における活動の目的が達成されるよう支援する。
	健康・安全指導	○特別支援教育の必要性を踏まえた指導の充実 ○教職員間及び学校・家庭・各関係機関との間の連携を基盤とした相談体制の充実	(1) 特別支援教育に係るきめ細かな情報を先生方へ提供する。 (2) SCやSSW等、専門機関との連携を密にした相談体制を充実する。	・教育相談通信の発行等により特別支援教育に係る情報を教職員に提供する。 ・教職員間及び学校・家庭、SCやSSW等と密に連携し、教育的な配慮や支援を必要とする生徒対して計画的な相談活動を行う。
学校運営	信頼される学校づくり	○「開かれた学校」実現のための教育成果の周知と普及 ○地域や保護者との連携体制の構築	(1) 学校だよりの編集・発行とWebページ活用を戦略的に行う。 (2) 地域の人材・行事等を積極的に活用し、学校PRにつなげる。	・学校だよりのWebページ等を活用し積極的かつリアルタイムに情報発信する。 ・地域人材や教育資源を活用した教育活動を推進し、取組を積極的に情報発信する。
	組織運営	○課題解決に向けた協働体制の充実 ○PDCAサイクルに基づいた組織運営の充実 ○働き方改革の推進	(1) 新たに発見した課題の改善策を検討する。 (2) 学校評価の仕組みを改善し、マネジメントサイクルの効率を高める。 (3) 教職員の意識改革および業務の平準化を図る。	・新たに発見した課題の改善策について検証し、組織的に課題解決に取り組む。 ・学校経営シラバスに基づく評価や学校評価を年度中間でも実施し、改善サイクルを向上させる。 ・アクションプランに掲げられた取組を推進する。
	教職員の資質向上	○持続発展可能な手稲高校実現のための意識啓発 ○教育相談を含めた生徒指導力の向上 ○危機管理体制の確立	(1) 校内研修や視察研修を充実する。 (2) 特別支援教育についての研修体制を確立する。 (3) 勤務規律遵守について確実に意識啓発する。	・学校改善、授業改善に向けての校内研修や校外視察研修を充実する。 ・特別支援スーパーバイザー等による校内研修を実施する。 ・研修や啓発の呼びかけを定期的に行い、事故発生を未然に防止する。